

Ⅱ. 4. 大阪大学言語文化学会・大阪大学言語社会学会

○言語文化学会活動

(2016 年度)

2016 (平成 28) 年 6 月 23 日 大阪大学言語文化学会第 49 回大会

(2016 年度春季 大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会)

<研究発表> ※ () 内は所属の学会

西村瑠璃子 (言社) : *Kicking a Dead Horse* に描かれるアメリカをとりまくアイデンティティ・クライシス

桑原拓也 (言文) : デイヴィッド・フォスター・ウォレスの自己と他者の表象について——*The Broom of the System* を中心に——

夏麒麟 (言社) : 週刊《礼拝六》(1914~1923) の総二百期に現われた民国の美術事情

長尾麻由季 (言社) : 発芽する物語の種子——*The Bluest Eye* における Toni Morrison の創造的意匠

平川和 (言社) : *Beloved* への薔薇——Faulkner から Morrison へ受け継がれる「眼差し」の技巧

後藤篤 (言社) : ゼンブラからアトムスクへ——ウラジーミル・ナボコフの『青白い炎』における幻想の地政学

張文超 (言文) : 中国人向け日本語教科書における日中同形語の質的な使用に関する検討

三野貴志 (言文) : Classification of *There* Construction as a Radial Category

林桂生 (言文) : ASD (自閉症スペクトラム障害) 者のナラティブと「異文化」—自閉症カフェの実践と勤労中高年 ASD 者の困難—

呉雨倩 (言文) : 批判的談話分析に基づく安保法成立をめぐる社説の分析試案

<総会>

・活動報告

・委員改選

新委員 :

井元秀剛 (委員長)、金崎春幸 (副委員長)、越智正男 (春季大会運営担当・前期)、ジェリーヨコタ (秋季大会運営担当)、岡田悠佑 (秋季大会運営担当)、宮本陽一 (秋季大会運営担当・後期)、ヨコタ村上孝之 (学会誌担当)、王周明 (書記)、ハンヒソン (事務局)、オユナーノミン、桑原拓也、田儀勇樹、田中史哉、南澤佑樹

・会計報告

2016（平成28）年10月27日 大阪大学言語文化学会第50回大会

（2016年度秋季 大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会）

<研究発表> ※（ ）内は所属の学会

岩本莉子（言社）：長く覚めない夢——Richard Wright の *The Long Dream* における父子関係

Yakimenko Regina（言文）：1920 - 1940年代の満洲における日常性に関する日本人とロシア人の考察（日本人とロシア人の回想記の対照分析の試み。「衣食住」という問題を焦点に）

薛桃子（言文）：「意見を述べる」言語行動の日韓対照研究
—「聞き手の私的領域」と「情報のなわ張り理論」の観点から—

中谷内なつみ（言社）：スウェーデン語の<恐怖>のメタファー/メトニミー
— 概念メタファー論における類義語 —

山本玲奈（言社）：The Puttermesser Papers における言語の可能性——Cynthia Ozick が描く女性たち

林桂生（言文）：支援職のナラティブに隠された偽善と権威主義
—『発達障害がある人のナラティブを聴く』を読む—

小倉永慈（言文）：失われた父を求めて
—リチャード・パワーズ『舞踏会へ向かう三人の農夫』

久保和真（言文）：フィッツジェラルドから少しはなれて——“Babylon Revisited”の「崩壊」に見るポリフォニー

朴香芸（言文）：小説から映画へのアダプテーションについて
— 短編小説のアダプテーションの特徴を中心に—

轟晶（言文）：『夜窓鬼談』の改作から表現された作者の諧謔と風刺精神
—「偽情死」を中心に—

2017(平成29)年3月31日『言語文化学』第26号発行

<査読者>

今尾康裕、岩井康夫、王周明、大村敬一、越智正男、片山泰一、金崎春幸、北村卓、木原善彦、小門典夫、小杉世、坂内千里、里内克己、篠崎直也、田畑智司、中直一、秦かおり、日野信行、深沢一幸、宮本陽一、森祐司、山本佳樹、ヨコタ村上孝之、義永美央子

○『言語文化学』第26号(2017)目次

論文

- 後部要素が状態や動作をあらわす四字漢語のアクセント融合問題
—統語的關係と意味の視点から— …………… 陳 曦
支援職のオリエンタリズム的思考
—発達障害がある人のナラティブを聴く』を読む— …………… 林 桂生
ミハイル・チェーホフが目指した演劇
—第二モスクワ芸術座とダーティントン・ホール芸術センター
での活動の比較から— …………… 西田 容子
英語母語話者によるアメリカ英語とニュージーランド英語の母音の同定
…………… 野澤 健
小説から映画へ
—『カラー・パープル』のアダプテーションにおけるジェンダー表象の変容—
…………… 朴 香芸
BLCDの遷移とジャンルとしての位置
—発売された作品の数と原作媒体を中心に— …………… 錢 蕾
内モンゴル自治区における日本語専攻学習者の動機づけに関する調査
—学年による違いを中心に— …………… 張 立偉

(2017年度)

2017(平成29)年6月29日 大阪大学言語文化学会第51回大会

(2017年度春季 大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会)

<研究発表> ※ () 内は所属の学会

- 占部歩(言文) : ヴィクトル・ペレーヴィンと筒井康隆 —フィクションという遊び—
川添誠(言社) : ラファエル・アルベルティ『天使たちについて』におけるスペインの
シュルレアリスムの諸相についての考察
川村明日香(言文) : ミュージカル『ライオンキング』におけるアフリカイメージの生
成方法
金兌(言文) : 海外の日本ポップカルチャーイベント比較
長尾麻由季(言社) : Tori Morrison の児童文学における教育のジレンマ —The Big Box
と The Book of Mean People を中心に—
林桂生(言文) : 勤労中高年 ASD 者のオートエスノグラフィー
南澤佑樹(言文) : 怒りの感情における中心的メタファーについて
山崎加奈(言社) : スペインの劇作家アルフレド・サンソルの作品に反映される幼少期

の記憶

<総会>

- ・活動報告
- ・委員改選

新委員：

中直一（委員長）、井元秀剛（副委員長・前期）、山下仁（副委員長・後期）、郡史朗（書記・後期）、霜鳥慶邦（秋季大会担当）、中村綾乃（書記・前期）、ハン ヒソン（事務局）、ホドシチェック、ボル（学会誌担当）、村上スミス、アンドリュー（春季大会担当・前期）、宮崎麻子（秋季大会担当・後期）、渡辺秀樹先（秋季大会担当・後期）、安里仙華、小倉永慈、黒田絢香、張雨辰、三野貴志

- ・会計報告

2017（平成 29）年 10 月 26 日 大阪大学言語文化学会第 52 回大会

（2017 年度秋季 大阪大学言語社会学会・言語文化学会合同研究発表会）

<研究発表> ※（ ）内は所属の学会

石田美香（言社）：戦後アメリカ統治下における沖縄の陪審制度 1963-1972 —陪審員および陪審候補者の分析—

木下実紀（言社）：J.モーリア『ハージーバーバーの冒険』から見るイギリス人の眼差しと作品の影響

洪心怡（言文）：台湾の日本語学習者による日本語破裂音の知覚研究

近藤佑樹（言社）：亡霊宿りしトポスにおける生者と死者 —Philip Roth の The Human Stain における未完のプロジェクト

銭蕾（言文）：中国におけるヤオイの受容状況 —中国のヤオイ情報誌を中心に—

田島麻紀（言文）：マンガに見る「帰国子女」の表象

服部拓哉（言文）：Misuse of Non-Falling Tones by Japanese EFL Learners

林桂生（言文）：自閉症カフェにおけるオートエスノグラフィー

村木健路（言社）：モンゴル語の「名詞 - т а й」型形容詞に関する意味考察

南澤佑樹（言文）：ノルウェー語における前置詞 *foran* 及び *fremfor* の意味について

李潤澤（言文）：「娘」から「妻」への変容 —『新しき土』と『支那の夜』にみるオリエンタリズムと日本的オリエンタリズム—

HOFER Fabienne（言社）：日本語「国民」と「民族」の原語、意義変容と普及

TÓTH Márton András（言社）：第 2 言語日本語学習者の作文における複合格助詞の分析

2018（平成30）年3月31日『言語文化学』第27号発行

<査読者>

伊勢芳夫、今尾康裕、井元秀剛、岩根久、上田功、植田晃次、榎本剛士、大谷晋也、大前智美、大村敬一、岡田悠佑、小川敦、片山泰一、北村卓、木原善彦、小藁哲哉、小口一郎、佐藤彰、里内克巳、津田保夫、秦かおり、林良彦、深澤一幸、三宅真紀、宮崎麻子、森祐司、山本佳樹、由本陽子、渡邊伸治

○『言語文化学』第27号（2018）目次

論 文

21世紀に読む『侍女の物語』（*The Handmaid's Tale*）

—アトウッド作品における女性、身体、アメリカ— …………… 安保 夏絵

文化大革命時代のユートピア的表象 —姜文の『太陽の少年』—

…………… 朴 香芸

勤労中高年ASD者のオートエスノグラフィー …………… 林 桂生

丸括弧表現の空用法における記述的考察 …………… 板垣 浩正

アフリカイメージの創られ方 —ミュージカル『ライオンキング』を通して—

…………… 川村 明日香

感動詞の高さの動きから見る日本語の会話表現のイントネーションの特徴

…………… 郡 史郎

日本のメディアによる北朝鮮報道についての考察

—新聞記事見出しのテキストマイニング解析の観点から— …………… 呉 雨倩

日本の国会の会議におけるe-Learningの言及について …………… 張 文超

○言語社会学会活動

大阪大学言語社会学会記念学術講演会

日時： 2017年6月29日（木）13時30分～14時50分

会場： 大阪大学外国学図書館AVホール（箕面キャンパス）

講師： 仁田義雄先生（関西外国語大学教授）

講演タイトル： 日本語の（単）語を求めて